

秋夜丘二十二員外に寄す

韋

応

物

君を懐うて 秋夜に属す

散步して 涼天に詠ず

山空しうして 松子落つ

幽人応に 未だ眠らざるべし

【作者】韋 応物(七三六〜七九一年?)、中国・唐(中唐)の詩人。京兆府長安県(陝西省西安市)出身。北周朝からの名門の家に生まれ、若い頃は

太学に学んだ。玄宗に近衛士官(三衛郎)として仕えた。玄宗のおぼえはめでたかつたものの、強気なところがあつた。安史の乱の後、職を失つたため故郷に帰つて貧窮した。そこで心を入れ替えて勉学に励んだ。その後、下級の地方官を転々とした。洛陽県丞のとき軍兵が不正をはたらくの厳しく取り締まつた。それから病氣を理由に辞任したり滁州(安徽省)刺史になつたりと、官途に就いたり辞めたりを繰り返した。七八六年には蘇州刺史になつた。そして白居易が赴任してくると引退し、寺院に寓居した。その最期は判然としないが、大和年間(八二七〜八三五年)まで生存していて、劉禹錫によつて官に推薦されたというが確証はない。自然を詠う詩に巧みで、とくに自然の静けさや穏やかさを主題とする物に秀でてゐる。盛唐の孟浩然や王維を受け継ぐとされ、柳宗元も一括して“王孟韋柳”と並称される。『韋蘇州集』十卷が伝わる。作品には『幽居』(五言古詩)、『聞雁(雁を聞く)』(五言絶句)等がある。

【語釈】*寄:手紙で届ける。手紙で送る。 *丘:名は丹。蘇州の人。 *二十二:排行で、(男兄弟の)二十二番目。二十二男。(大家族制である) *員外:補佐役。定員以外に補任された官。 *屬:ちようどいま。おりしも。たつたいま。いましたばかり。まさに。たまたま。

【通釈】秋の夜に、丘家の二十二男である員外郎の丘丹に手紙と詩を出した。あなたを懐かしく思い出しているのは、おりしもちようど秋の夜であり。すずしい秋の夜をそぞろ歩きをして詩をうたつたりした。松笠の落ちる音がよく響くが。人里離れて静かに暮らしているあなたのことでも、松笠の落ちる音がよくしておそらく、まだ寝られないことだろう。